



カリエロ 11



サレジオ会 宣教 ニュース

207 2026年 3月

サレジオ会宣教部門による
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

ドン・ボスコのサレジオ会員として
初期養成を受けている若者たちに、
しばしばアメリカやヨーロッパで出会
うのは私にとって喜びです。彼らの笑
顔に、青少年のためにどんなことを
しているか、召命の旅の最初の歩み
を衝き動かす夢について、また、問い
や、傷さえも浮かび上がらせる心配
事について話してくれるその話に心
を打たれます。共同体は、彼らが交
わりと兄弟的生活を体験する場であ
りつづけています。

対話のなかで私たちは、楽しいか、
それとも幸せか、確めようとして
ます。なぜなら幸せは、より深く、より安定
的で、よりしっかりとした根をもち、
私たちの心を真に動かす望みだから
です。その次の一步は、信仰におい
て成長しようとしているか、それと
も、活動のための道具を集めている
のか、自らに問うことです。皆さんが
イエス・キリストとの出会いと友情の
うちに、永続する幸せを見いだすこ
とを願っています！

■ 養成部門メンバ
ー
グイド・エリコ神父, SDB

聖地で橋を造る



武力紛争、根深い緊張、開いた傷の著しい今日の聖地で、平和と武装解除について語ることは、抽象的な理念ではなく、具体的な必要です。解決策が部分的で不完全に思われても、損害を抑え暴力を減らすあらゆる一步一步が、希望のしるしです。複雑な状況のなか、人間的な苦しみを抑えることは、すでに道義的責任に基づく選択なのです。

壁ではなく橋を築くことは、対立よりも対話を、力の論理よりも協力を選ぶことを意味します。**武装解除は、ただ武器を減らすことではありません。**それは大きな文化的、政治的な変革を必要とします：憎しみを煽るような、心、言葉、力の構造の武装解除をすることです。しかし、いかなる平和への歩みも、**正義に基づいていなければ、真正なものとは認められません。**正義がなければ、平和は脆弱なままで、いつか崩壊します。正義とは、すべての人の尊厳の具体的な認識、人権の尊重、最も弱い人々の保護です。それは、過去の傷が認識され、いやされることを可能にする条件であり、暴力の新たな原因となるのを防ぎます。この土台がなければ、いかなる停戦協定も、二つの紛争の間の一時的休止に過ぎなくなる危険があります。

誰もが平和と安定のうちに暮らす権利を持っています。平和は、単に戦争のない状態ではなく、**恐れから解放され、平和で尊厳のある暮らしを送る**可能性があるということです。将来を築く希望をしばしば奪われている若者たちは、特にこの平和を必要としています。不正義の著しい聖地は、若者の夢、機会、信頼を奪うのです。

平和を築くということは、**和解**、共同体の再建、傷ついた記憶のいやしに**投資すること**を意味します。武力ではなく、人を中心にすることを意味します。この歩みにおいて、霊的な次元が、光と支えを差し出します。正義にかなった永続的な平和を祈ることは、すべての人のいのちが神聖なもので、尊厳をもって大切にされなければならないことを確認することを意味します。それは、聖地の諸宗教、諸文化の垣根を越える呼びかけであり、平和の建設者となるよう皆を招きます。

平和はユートピアではありません、**共に担う責任**であり、勇気、真実、正義を必要とする**日々の取り組み**です。そのように取り組むときにはじめて聖地は、現在と将来の世代に真に人間らしい未来を差し出すことができるのです。

■ 中東管区MOR 宣教師 エマヌエレ V.

振り返りと 分かち合いのために

- 自分の暮らす環境で、どのような「目に見えない武器」が、人との関係を損なっているだろうか？ どうすれば、その武装解除を助けられるだろうか？
- 「見せかけの平和」の陰に不正義が隠れているのを見たことはある？ 真の平和のために何が必要だろうか？



カンボジア

国境の危機に希望をもたらす



マイケル神父様、神父様はカンボジアで働いていて、家を後にシタイ軍から逃れなければならなかった人々に寄り添っています。このタイとカンボジアの戦争について、簡単に説明していただけますか？

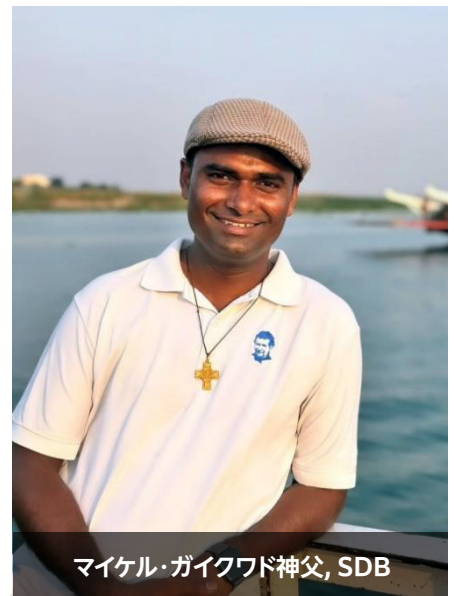
現在のタイとカンボジアの紛争は、国境地帯における長年の対立と結びついています。政治的、軍事的な面は複雑ですが、ふつうの人々への影響は大変痛ましいものです。国境近くの村々は、軍隊の存在と暴力の恐れのため安全ではなくなりました。多くのカンボジア人の家族は、突然、家を後にすることを余儀なくされています。人々は政治にも紛争にもかかわっていません。子どもや家族のために安全を求める被害者です。

神父様はほかの人たちと一緒に多くの人の避難を助け、難民キャンプにいる人たちを訪問しています。今、人々が最も必要としているものは何ですか？

私たちはスタッフと一緒にドン・ボスコ・ポイペットの生徒たちを避難させました。恐れと緊張のなか行われた緊急避難でした。サレジオ家族のメンバーが二つの難民キャンプを訪問しました。第一に、人々には安全が必要です - 恐れることなく眠れる場所です。また、基本的な必需品もあります：食べ物、清潔な水、一時的なシェルター、衣類、医療です。多くの子どもや若者が弱い立場に置かれています。物的なニーズを超えて、サレジオの存在と励ましは大いに必要とされています。多くの家族が心理的なショックを受けています。子どもたちは怖がっていて、親は将来に大きな不安を抱えています。耳を傾け、慰め、心にかけているというささやかなしるしを差し出すことは不可欠です。長期的には、安全に帰還する支援、帰ることができない場合は生活を再建する支援が必要になります。

この困難な状況は、カンボジアのサレジオ会にどのような影響を与えていますか？

この状況は、カンボジアのサレジオ会の生活とミッションに大きな影響を与えています。正規の活動、特に教育と青少年司牧は、見通しを修正しなければなりません。現在、若者のための行事は、戦争を間近に生活する現実に合わせてものになっています。同窓生たちが惜しみなく応えてくれて、困窮する人々に奉仕しています。私たちは、緊急支援、同伴、人道的支援の連携調整に優先順位を移しました。この状況は、物理的、精神的な負担をもたらしましたが、他方では私たちの兄弟愛と使命を強めました。私たちはサレジオ会員として、物的支援だけでなく、福音に根ざした希望をもたらします。カンボジアの人々が孤立していないこと、忘れられていないことをあかししているのです。



マイケル・ガイクワド神父, SDB

私は、インド、マハラシュトラのブネ出身です。2015年に宣教師として、カンボジアのドン・ボスコ・シアヌークヴィルへ行きました。2年後、**神学の勉強のためオーストラリアへ渡り**、2021年に司祭に叙階されました。それ以来、**カンボジアのドン・ボスコ・ポイペット**にいます。ここでは財務と、「カンボジア・ドン・ボスコ子ども基金」の責任者を務めています。私たちは、基礎教育を修了できるような生徒たちを助けています。生徒数は約1200人です。



世界に存在する武器

出典：www.smallarmssurvey.org

フ
ォ
ー
ラ
ム

民間に広がる武器：合わせて約8億7千5百万個の内、

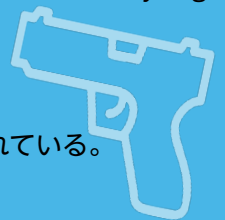
6億5千万以上の武器を一般市民が所有している。(約75%)

アメリカ合衆国：3億9千3百万以上の武器が、住民100人あたり120個という密度で所有されている。

他の国々：市民の所有する武器の数が多い国として、

インド(4千6百万)、中国(4千万)、ドイツ(2千5百万)、フランス(1千9百万)が続く。

ヨーロッパ：少なくとも3千5百万の違法な武器が出回っていると推計される。



3月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

武装解除

武装解除と平和のために
(教皇レオ十四世の祈りの意向)

国々が実効性のある武装解除、特に核兵器の廃絶へと向かい、世界の指導者たちが暴力ではなく、対話と外交の道を選ぶよう祈りましょう。
(サレジオ会の宣教の祈りの意向)

イスラエルと
パレスチナ

